

“地域の元気”を集めてつくる

回覧

特集

ほっと通信

2025.11.18

防災訓練

No.11

山王網一色自治会連合会

“地域の特性”と“被災地の食”を考える…

150人が参加した山王網一色の「防災訓練」

「小田原市いっせい総合防災訓練」が11月8日午前、山王網一色地区の広域避難所となる山王小学校体育館などで開かれました。山王西・山王東・山王70区・網一色の4自治会のほか、赤十字奉仕団、小田原市役所、小学校、陸上自衛隊駒門駐屯地などから約150人が駆けつけました。



今年は、自衛隊の炊飯訓練を通して被災地の“食”を考えようと山王網一色自治会連合会(会長・金子勝山王松原自治会長)は、まちづくり委員会の防災・福祉部会のメンバーによる打ち合わせを重ね、防災訓練に備えました。訓練では、山王松原地域の事情から新玉地域への訓練に参加する金子連合会長に代わり、同連合会副会長で網一色自治会の飯野隆会長が、指揮を執りました。

飯野会長は、4自治会から駆け付けた人たちを前に、5グループに分けて体験する訓練日程とハザードマップをもとに海底構造から大きな津波が発生しにくい山王網一色の地域特性と大規模災害に備える訓練の大切さを呼びかけました。

また、加藤憲一市長は、参加者を前に相模湾と2つの2級河川に挟まれた山王網一色地域の特性を考慮した防災訓練に期待を込めました。



参加者は、5班に分かれ①三角巾と代用品②AED(自動体外式除細動器)操作③簡易トイレ、新型トイレ「ラップポン」の組立④応急給水⑤耐震性貯水槽(100トンタンク)からの給水などを体験しました。また、陸上自衛隊駒門駐屯地の自衛隊・炊飯訓練によるカレーを試食し、被災地の“食”に心を寄せました。

三角巾・膝手当&応急時のビニール袋

赤十字奉仕団／医師が指導

現役の医師ら2人が三角巾の基本や結び方を分かりやすく説明。家庭にあるスーパーのビニール袋を使った応急処置も伝えました。



AED(自動体外式除細動器)
市消防団第3分団が指導

山王網一色・浜町地域の安全・安心を守る市消防団第3分団が、ダミー人形を使った心肺蘇生法を指導しました。

守る！命

新型トイレ「ラップポン」実演 リモコンで汚物を90秒後にラップ処理

トイレは、和式からすべて洋式に代わりました。訓練では、汚物に凝固剤を入れて固めた後、リモコンで90秒後にラップ処理する新型トイレ「ラップポン」の実演もあり、参加者の注目を集めしていました。

「ラップポン」は、訓練を機に6基導入されました。また、来年度以降、早い時期に「マンホールトイレ」の導入も計画されています。



懐かしい手押しポンプで給水 耐震性貯水槽(100トンタンク) 東町住民3日分の飲料水確保

小田原東高校・海側駐車場に埋設されている耐震性貯水槽(100トンタンク)は、水道の給水管路に設置されており、常に水道水が循環し、水質を保っています。

災害時に水道管が破損などで給水路の水圧が下がると、緊急遮断弁が自動的に作動し、貯水槽内に飲料水が貯留されます。手押しポンプ2基を使って5つの応急給水口からの給水が可能となります。

70代の男性は、懐かしそうに手押しポンプを上下させながら「子どものころ、風呂の水を汲んだ思い出が蘇ってきた」と笑顔をみせていました。

応急給水口操作 応急給水栓とホース繋ぎ 4カ所から給水



被災地の“食”を考える カレー試食

自衛隊による炊飯訓練

御殿場市の陸上自衛隊駒門駐屯地から自衛官7人が、トレーラー型の野外炊具を使い、災害派遣活動で被災者の食を支えたカレー150食超をつくりました。

前日には、自治会のまちづくり委員会ボランティア会のメンバー14人が、マイ包丁を手に70区公民館に集結。ジャガイモやニンジン、玉ねぎなど食材をトントントン…と軽やかな音を立てながら刻み、自衛隊カレーの下ごしらえに力を注ぎました。

70代のボランティアは、「お米の水加減を測るのに腕を使っていた。電気釜の普及した今、懐かしく感じた」「お焦げができる直前の火加減など飯盒炊飯を思い出した」と話していました。

